

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900218
法人名	社会福祉法人 大一会
事業所名	グループホーム鈴蘭 3ユニット (ほほえみ・とがめ・からいも)
所在地	伊佐市大口宮人463番地30 (電話) 0995230139
自己評価作成日	平成27年9月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.Kaigokensaku.Jp/46/index.Php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年10月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鈴蘭ではご利用者お一人おひとりの尊厳を大切に、日々の生活が家庭的な雰囲気である環境となるよう努めております。食事に於いては地産地消を心がけ、米処の伊佐米を毎日の食事に取り入れております。また、月に1回は自身で選んで食する楽しさを味わって頂けるようバイキング方式で食事を提供しております。入浴に於いては近くの温泉を引いており、ゆっくりとご希望の時間にお風呂を提供できるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○開設以来、法人及びホームの理念に加え各ユニットごとにケアの基本姿勢の目標を毎年話し合い、利用者の尊厳や誇りを大切にしながら思いや意向の把握に努め、地域の中でその人らしく生きがいのある生活の支援に日々取り組んでいる。日常生活の支援に際しては、何より利用者の気持ちに寄り添うことに努めており、日課を強いることなく遅い朝食や夜間の入浴、睡眠時間(早寝や遅い起床)等利用者の状態や気持ちに配慮して柔軟な対応に努めている。

○ホームは市役所から数キロ離れた閑静な農村地帯に、同法人の知的及び身体障害者の施設に隣接して設置されており、これらの施設で1自治会を構成している。地域交流については、開設当初から積極的に取り組んでおり、小学校の運動会や入学・卒業式への参加、保育園児や温泉センターの利用者との交流、ボランティアの受け入れ、学生の実習や職場体験等の実施の他、日常的に面会や散歩時の談笑、農産物を頂くなど地域の一員として親密な交流が継続されている。また、地域の人々から日常的に寄せられる福祉の制度や介護に関する悩みや相談に的確に助言や指導を行う等地域住民から厚い信頼を受けている。

○管理者は、職員間及び利用者・家族との協力体制や信頼関係の確立が、なにより利用者へのサービス向上に反映すると認識しており、日頃から要望や意見等の把握に努め、出された課題には速やかに職員全員で協議して改善に取り組んでいる。年2回の人事考課に伴う面接や、管理者も職員から評価を受ける「360度評価」の制度を法人全体で実施して、要望等を気軽に述べたり協議できる体制が築かれている。また、職員のスキルアップにも熱心に取り組んでおり、各種の研修を計画的に実施すると共に、外部主催の研修にも職員が意欲的に参加できるように細かに配慮している。特にターミナルケアについては、技術の修得や不安の除去を図る研修を繰り返し実施して利用者や家族の希望に添える体制を構築している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当初から法人理念・事業所理念を基本に支援を行っている。またユニット毎にも理念を掲げ、それらをもとに取り組んでいる。	法人・ホームの理念に加え各ユニット毎の理念も作成して、利用者が家庭的な環境の中で平穩に生活できるよう、きめ細かな支援に取り組んでいる。理念はホールや食堂等目につき易い場所に掲示すると共に、朝礼での唱和や毎月の職員会議や朝夕の申し送り時の振り返りで認識を深め、理念に沿ったケアの実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	年間行事として近隣の小学校の運動会や保育園との交流会に参加し、交流を深めている。日常的にはなじみのある地域の理美容室を利用し地域とつながりを持つようにしている。	法人が設置する施設で1自治会を組織しており、開設以来地域との交流に積極的に取り組んでいる。小学校の運動会や入学・卒業式、ひな祭りに参加したり保育園とも密に交流している。敬老会等施設の行事には家族や地域の人々の参加があり、民生委員の施設研修、看護学生の実習、中学生の職場体験を積極的に受け入れ、歌や踊り、楽器演奏等のボランティアとの交流も頻繁に行われている。友人、知人の来訪も日常的にあり、日頃の散歩やドライブの際には親しく挨拶を交わしたり、農産物を頂くなど地域住民と交流する機会は多く、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	現在のところ実施できていないが、法人で行っている介護予防教室等に参加できる機会があれば活かしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。、会議の中では事業所での取り組みや状況を報告しご意見を頂き、行事で作った味噌やちまき等もお配りしている。会議での意見をもとにサービスの質の向上に努めている。</p>	<p>会議は利用者や家族、地域住民、職員の家族、市役所の職員等が参加して定期的開催されている。ホームの現況報告や行事・課題等について意見交換が行われ、委員からは防災や介護に関する質問や地域の高齢者に関する情報が出され、併せて認知症や介護保険法の研修も実施している。会議の内容は議事録で共有を図り、具体的に業務や日々のサービス向上に活かされている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議や地域密着型サービス連絡会に参加し事業所の実情やサービスの内容を報告し、行政機関との連携を図り情報交換を行っている。</p>	<p>市の担当者には日頃から訪問や電話で各種の手続きや運営及び利用者の状況について協議や相談を行って、適切に助言を頂くなど協力関係を築いている。運営推進会議や地域密着型サービス連絡会等で地域の実情や課題の意見交換を行う機会も多く、連携を深めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>施錠については夜間帯での戸締りを行っているがそれ以外は基本的には行っていない。新たに、法人で身体拘束廃止規程を制定し、代表者・全ての職員において身体拘束をしないケアを心がけ理解している。</p>	<p>身体拘束の排除については、身体拘束廃止規定を整備しており、職員会議や法人全体で虐待防止や権利擁護等に関する研修を計画的に実施して認識を深めている。言葉による拘束や行動制限については、日常的にケアの振り返りや話し合いを行い、拘束の無い自由な暮らしの支援に取り組んでいる。居室や玄関の施錠は行わず、外出しそうな利用者には散歩やドライブに付き添って安定を図る等、常に見守りや寄り添うケアにより行動や思いの把握に努め、近隣の人にも声掛けや連絡の協力を貰っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員同士で研修を行い、虐待防止に向けて安心できる環境の提供に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内で研修を行い必要な時は説明できるように学びを深めている。新人職員へ対しても、独自に研修を行い、知識を高められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用者・家族の方に契約する際、書類等で詳細に説明を行い理解・納得して頂き契約に至っている。不安や疑問点がある際はその都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議でご利用者やご家族の代表者を決めて参加して頂き、意見を述べる機会を設けている。また、面会の際にはケース記録の閲覧によって、様子を把握して頂いている。また、年1回の利用者満足度調査に於いてご意見を頂いている。	利用者の思いや意見は、日々のケアの中での会話や表情、しぐさで、また家族とは運営推進会議や面会時の対話、電話等で意見や希望を把握するよう努めている。内容は「業務日誌」や「ケース記録」で共有を図り、スタッフ全員で対応を話し合っ改善に努めており、結果は電話や来訪時に家族に報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議や年2回の人事考課面談を通し意見や提案を聞く機会を設けている。	管理者は、日頃から話しやすい環境づくりに配慮しており、日頃のケアの中や職員会議、申し送りの際に、また内容によっては個別面談を随時実施して、意見や要望、提案の把握に努めている。年2回の面接や、管理者も職員からの評価対象となる「360度評価」での意見も十分に反映させて改善を図っており、職員間の信頼と協力体制の構築された職場づくりに取り組んでいる。施設内研修に加え外部の研修への参加も積極的に行って職員のレベルアップを図り、運営やサービス内容の改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>人事考課の導入により職員個人が自己評価をし、管理者などで評価を行うことで職員にも向上心を持って業務に望めるよう努めている。勤務状況や給与体制にも配慮されている。法人独自に、バースディ休暇・アニバーサリー休暇・PTA休暇なども取り入れている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を設けると共に、内部研修を定期的に計画し、職員の質の向上に努めている。また、新人職員に対してはプリセプター制度やスキルアップ研修を用いて、統一した教育を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡会に参加し同業者との交流や連携を図っている。また、地域のサービス事業所や行政機関との連携も図っている。各課合同の内部研修等により学ぶ機会を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>まず入居前に情報収集を兼ね面会を行い、顔見知りになることで安心感を持って頂くよう努めている。得た情報を基に職員間でミーティングを行い、要望や注意事項についても把握するよう努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>契約の段階でご家族の方からの不安なことや要望に耳を傾ける。その情報をミーティングにて利用し、職員間で話し合い応えられるようにしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人とご家族の要望をお聞きし、主治医やケアマネージャーと連携を図りながらその方にあった、その時に必要な支援を行うよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>全てにおいて職員だけで支援するのではなく、本人の意思を尊重しながら調理・洗濯・掃除などを一緒に行い、お互いに協力し合って生活している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月一回ホーム便りを送付し、近況を報告している。誕生会や敬老会等の行事ではご家族へ参加を呼びかけている。面会の際にも状況を報告し、ご家族との信頼関係を築くよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブを兼ね自宅や馴染みの場所へ赴いている。また、理髪店等は本人様がかつて行かれていたところを利用するなどし、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	利用開始時に利用者や家族、ケアマネジャー等から利用者を取り巻く馴染みの人や場については聴取し、「アセスメントシート」や「ケース記録」で情報を共有している。利用者の意向に沿って、理美容室や買い物、一時帰宅、近隣のドライブ、出身地の行事への参加等を、家族と連携して支援している。家族や知人・友人の来訪時にはゆっくりと過ごせるように場所や時間、湯茶等を配慮し、また遠方の家族との電話や手紙の取り次ぎも行って関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有の場所でお茶を飲んだり体操をしたりできるように支援している。また、利用者間でそれぞれの居室へ遊びに行かれたとき、会話が弾むようにお茶菓子を持っていったり、そっと見守ったりしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご利用者のご家族等にも広報誌を送るなどして関わりを持ち、関係を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の暮らしの中でご本人と話をしながら希望や意向を確認している。ご自分の思いを伝えられない方については、ご家族からの情報を中心に、スタッフの意見を交えながら検討している。	利用者及び家族との日頃の関わりの中で、思いや希望をくみ取るように努め、「業務日誌」や「ケース記録」で内容を共有している。介護に関する事はもちろん、趣味の継続等の希望にも家族と相談しながら、利用者の気持ちを大切にされた本人本位の支援の実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の言動や、ご家族からの情報を元に、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の心身状態の変化にはいち早く気付けるよう、職員間で情報交換を行っている。改善すべき必要があれば、ミーティングを行い検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングや家族を交えた話し合いを持ち、職員間で意見交換をし、ケアに活かせるように努めている。モニタリングについては、その都度ミーティングを行い実施している。	利用者や家族の思いを十分に聞き取り、主治医や職員の意見を基に全員で検討して、課題や改善目標、支援の方法等を具体的に記載したきめ細かな介護計画を作成しており、実施に際しては利用者及び家族に丁寧に説明して了解を得ている。支援の実施状況は「業務日誌」や「ケース記録」等に詳細に記録し、モニタリングも毎月実施している。入退院など利用者の状況変化に対しても、実態にあわせて計画の見直しや修正を適切に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身近で支える職員が事実やケアでの気づきを具体的に書くように努力しているが、記録の見直しまでには至っていない。情報の共有の主な方法はユニットの申し送りの際に口頭で行ったり、連絡帳を活用し実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族のニーズに出来るだけ応えられるように心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事などに参加をしたり、希望があれば個別でご自宅や馴染みの場所に外出しているが、全てのご利用者の地域資源の把握までは至っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意のもと、月に一度の主治医の往診を実施している。また、協力医療機関との連携を図り他科受診の際も適切に対応している。	利用者の既往歴や受診の状況は十分に把握されており、本人や家族が希望する医療機関での受診を支援している。往診が月1回実施され、通院は家族や職員が同伴している。結果は利用者毎に記録され、医師や家族との情報交換等も十分に行われている。協力医療機関との連携は十分図られており、夜間の急変時にも即対応してもらえる体制が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約による訪問看護と連携しながら日常的な支援を行っている。また、通院による本人様の負担も考慮し、訪問看護師で対応できる部分については協力を得られるように相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は、定期的に職員が面会に行っている。その際、看護師やドクターから病状の経過や状態を聞き把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の段階で事業者が対応できるケアをご家族に説明し理解して頂いている。終末期の過ごし方についても、本人様とご家族と話し合い、本人様のご要望に添えられるよう努めている。	重度化や終末期のケアについては、利用開始時に利用者や家族に「重度化及び看取りケアの指針」によりホームの方針を説明して理解を得ている。重度化した時点で対応の意向を確認し、可能な限り希望に沿った支援の実施に取り組む体制の構築を図っており、看護師を中心に終末期のケアに伴う職員の不安の除去やスキルアップの研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については、定期的に職員間で研修をしたり、地域の消防署へ講師の依頼をしたりし、法人全体で学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防署の立ち会いを頂き、年間を通して2回の総合防災訓練の実施をしている。職員間での緊急連絡網についても、演習を行うことで意識を高く持てるよう努めている。</p>	<p>消防署と連携して、年2回火災や台風を想定した夜間を含めた訓練を隣接の障害者施設と一緒に実施しており、訓練後は消防署職員による災害に関する講話や消火器等の取扱いの研修で認識を深め迅速かつ的確な対応の習得に努めている。主任がBCP(災害時における事業継続)の研修を受講しており、災害を受けた場合の運営やケアの方法等を検討している。スプリンクラー等各種の設備は完備し、災害時の食料や飲料水の備蓄、卓上コンロ、ラジオ等も確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者が人生の大先輩であるということに常に心に留め、その人の誇りを損ねない言葉かけを行っている。トイレなどの声掛けの際には、周囲のご利用者へに悟られないように配慮し、もし排泄に失敗された際には落ち込まないような声掛けを行っている。	日頃から尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行うことの無いように常に利用者の人格を尊重し、敬愛の気持ちでケアに取り組んでおり、定期的な研修の実施と日常のケアや申し送り時の振り返りで認識を深めている。ボランティアや実習生等に対する指導も適切に行われており、利用者に係る台帳等の保管や居室の保護も細かに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴の時間は本人の希望に沿って臨機応変に対応している。意思疎通が困難なご利用者へは家族からの情報等から、出来る限り希望に近づけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、本人の希望や都合に合わせた支援を行うよう努めている。希望に沿えることが出来ないこともあるが、その時は本人と話し合い、時間・日等を改めて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人が好きなお色や柄を把握し、出来る限りその人らしいおしゃれができるよう努めている。意思疎通が困難な方も、家族からの情報を元に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行っているが、片付けは一部のご利用者と共にすることも。食事内容や形態は、その時その時で本人の希望を聴きながら臨機応変に付け加えたり、変更している。また、バイキング形式の食事にも月に1回提供している。	利用者の嗜好、食事形態、疾病に伴う摂取制限等を的確に把握して、栄養バランスに配慮した調理に努めている。季節感のある食材やメニュー、敬老会、誕生会での家族との会食、おせちやクリスマス等の行事食、弁当持参の花見や運動会、利用者も一緒に餅つき、そば打ち、味噌や灰汁巻づくり、またバイキング形式の食事、食材の購入に利用者も同行する等食事が楽しめるように日々工夫しており、職員も一緒に談笑しながら食事している。利用者各人の体調等に配慮して食事時間も柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録に取り、職員間で把握している。又、疾病を抱えている方は、体重増減や血糖値にも注意を払い、バランスの良い食事を心掛けている。必要であれば主治医に相談することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛けにより口腔ケアの実施を努めている。義歯を装着されている方は、洗浄剤を使用し清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	パットを使用せざる得ない方も居るが、一人一人に合わせた時間帯でトイレへの声掛け等を行い、出来る限りトイレにて排泄をして頂いている。又、本人から排泄の訴えがあった際は即座に対応している。	利用者の習慣や身体機能に応じて、羞恥心や不安に配慮した誘導・声かけに努めながら、可能な限りトイレでの排泄を支援している。また、利用者各人の身体状況に合わせて介護用品の工夫や、適度の運動、水分補給なども細かにケアプランに反映させて適切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の食事メニューにバナナと牛乳を取り入れたり、その日の水分摂取量にも気を付けている。排便があった時間帯、量も記録し、職員間で把握を努めている。必要であれば主治医に相談し、薬の使用も検討することがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人一人職員から声を掛け、本人の意思を尊重しながら入浴支援を行っている。本人から直接入浴の申し出があれば、曜日や時間帯に関係なく入浴を行っている。	温泉を利用しての入浴を週2回支援している。利用者の健康状態に配慮し足浴や清拭への変更を取り入れながら、温度や時間など可能な限り希望に添った入浴をゆっくりとした気分で楽しめるように支援している。夜間や毎日の入浴希望にも対応しており、入浴を拒否される利用者には無理強いしないで、時間や日程の変更、タイミングの良い声掛けなど工夫して、本人の意欲を待つようになっている。個浴で支援しており、皮膚疾患の手当やボディチェックをしながら、職員と利用者が親密にコミュニケーションを図れる場にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、夜間問わず、いつでも居室で休められる環境を整えており、夜間帯の消灯時間等も定めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際には職員間で連絡帳や申し送り等で周知し把握に努めている。薬が変更になった後の本人の様子も観察するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り、本人の希望に添った楽しみごとを提供できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人から自宅への帰宅を希望された際には、対応できるよう努めている。家族の協力が必要であれば職員から相談している。	利用者の健康状態や天候を考慮しながら、日常的に園周辺の散歩や日光浴、温泉センターでの入浴、ドライブ等を希望に添って支援している。また、買い物や外食、墓参、一時帰宅、外泊等は、家族と連携して可能な限り外出できるように支援している。季節ごとの花見、小学校の運動会や入学・卒業式へ参加など 日常的に外出の機会を多く企画しており、車椅子使用の利用者にはリフト車を活用する等、外出が楽しみになるよう工夫しながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で金銭管理ができる方に関しては、ご家族の了解を得て管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から希望があった際には、いつでも電話が掛けられる環境にある。家族から贈り物等があった際には、こちらから連絡し、本人と代わってお話して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者同士で共有する場所であるホール・廊下・トイレなどを定期的に清掃している。また、季節に合った花や折り紙作品などを飾っている。	広い敷地には花壇や菜園が設置されており、利用者は周囲の景色と併せて四季を感じながら収穫や散歩を楽しんでいる。ホールや廊下は広く開放的で明るく、空調・採光等にも十分な配慮がなされ、また衛生面にも留意して整理整頓に努めている。テーブルセットやソファ、椅子等が余裕ある間隔で配置され、冬季には畳部屋に炬燵も設置されて利用者に喜ばれている。季節の生花や作品、写真などが随所に飾られて、和やかな雰囲気的空間となっており、利用者は日中の殆ど時間をホールや廊下等好みの場所で気持ち良く過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの他に、玄関先に椅子とテーブルを設置し、好きな時に過ごせるような環境を整えている。各居室では、気のあったご利用者同士で集り会話を楽しまれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等はご自宅から持って来られたものを使われたり、家族が持って来られているが、ベッドに関しては、ほぼ共通のものを使用されている。	フローリングの居室は明るく余裕があり、エアコン、ベッド、洗面台が設置されている。利用者や家族の希望により、仏壇やテレビ、冷蔵庫、写真や使い慣れた時計、ぬいぐるみ、造花、小物等を自由に持ち込んで家庭同様に居心地の良い落ち着いた生活が営めるような居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況に合わせた食事・歩行・入浴・排泄を把握している。できることはして頂き、できないことを支援し、安全に自立した生活が送れるよう努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当初から法人理念・事業所理念を基本に支援を行っている。またユニット毎にも理念を掲げ、それらをもとに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事として近隣の小学校の運動会や保育園との交流会に参加し、交流を深めている。日常的にはなじみのある地域の理美容室を利用し地域とつながりを持つようにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	現在のところ実施できていないが、法人で行っている介護予防教室等に参加できる機会があれば活かしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。、会議の中では事業所での取り組みや状況を報告しご意見を頂き、行事で作った味噌やちまき等もお配りしている。会議での意見をもとにサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や地域密着型サービス連絡会に参加し事業所の実情やサービスの内容を報告し、行政機関との連携を図り情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠については夜間帯での戸締りを行っているがそれ以外は基本的には行っていない。新たに、法人で身体拘束廃止規程を制定し、代表者・全ての職員において身体拘束をしないケアを心がけ理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員同士で注意を図り防止に努めている。虐待防止に向けて研修を行い安心できる環境の提供に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内で研修を行い必要な時は説明できるように学びを深めている。新人職員へ対しても、独自に研修を行い、知識を高められるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用者・ご家族の方に契約する際、書類等で詳細に説明を行い理解・納得して頂き契約に至っている。不安や疑問点がある際はその都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議でご利用者やご家族の代表者を決めて参加して頂き、意見を述べる機会を設けている。また、面会の際にはケース記録の閲覧によって、様子を把握して頂いている。また、年1回の利用者満足度調査に於いてご意見を頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議や年2回の人事考課面談を通し意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課の導入により職員個人が自己評価をし、管理者などで評価を行うことで職員にも向上心を持って業務に望めるよう努めている。勤務状況や給与体制にも配慮されている。法人独自に、バースディ休暇・アニバーサリー休暇・PTA休暇なども取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を設けると共に、内部研修を定期的に計画し、職員の質の向上に努めている。また、新人職員に対してはプリセプター制度やスキルアップ研修を用いて、統一した教育を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡会に参加し同業者との交流や連携を図っている。また、地域のサービス事業所や行政機関との連携も図っている。各課合同の内部研修等により学ぶ機会を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報提供やご本人・ご家族に面会し、できる限りの状況を把握しておく。接する際には相手が不安にならないように言葉遣いに気を付けて要望に応えられる様努めている。知り得た情報を元に、ミーティングを利用しケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階でご家族の方からの不安なことや要望に耳を傾け要望を聞く。その情報や要望を踏まえたうえでミーティングを行い職員間で支援方法を考えケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の方からの要望を聞き、応えられるように職員、ケアマネージャー等と連携を図り必要としている支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てにおいて職員だけで支援するのではなくご本人の意思を尊重しながら調理・洗濯・掃除など共に行い協力し合って生活している。何事においても出来る事はして頂き出来る事を模索していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の支援状況等を相談し、ご家族の意見も踏まえながら今後のケアの方針を決め、支援に繋げている。面会時等において御本人の現状をお伝えし、今後のケアについて相談している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてからもご家族や馴染のある地域の方々にも面会に来て頂き関係を継続している。馴染みの理髪店など定期的に利用されたり、天気の良い日などは馴染みのある場所までドライブをしたりし支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者や職員の共有の場所でお茶を飲まれたり体操をしたり洗濯物をたたんだりできるように支援している。職員が間に入り孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご利用者のご家族等にも広報誌を送るなどして関わりを持ち関係を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の方とコミュニケーションを図りその人の思いや要望などを聞き取り把握に努め出来るだけ応えられるようにしている。意思伝達が困難なご利用者の方についてはご家族に相談し情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報や書類などに記載してある情報を職員で把握しプライバシーに配慮し、ミーティングを行い検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の心身状態や有する力等の把握に努めている。改善すべき必要性があれば職員間でミーティングを行い、検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見に耳を傾け情報を得る。リーダーや担当職員を中心にその情報の中から課題を検討しケース会議を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身近で支える職員が事実やケアでの気づきを具体的に書くように努力している。情報を共有しながら実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族のニーズに対し早急に対応出来る様心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	御利用者各人の地域・集落での行事等を把握し、お連れしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の同意のもと、月に一度の主治医の往診を実施している。また、協力医療機関との連携を図り他科受診の際も適切に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>契約による訪問看護と連携しながら日常的な支援を行っている。特変時も連絡をとり指示を頂いている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご利用者が入院した際は、定期的に職員が面会に行っている。その際、看護師やドクターから病状の経過や状態を聞き把握している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約の段階で事業者が対応できるケアをご家族に説明し理解して頂いている。また、医療機関と随時連携を図るようにして職員で取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時の対応については慌てずに適切な対応が出来る様、内部研修などを通して学んでいる。急変時の対応には職員・主治医・併設施設の職員とも連携を図りながら協力を頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年間を通して2回総合防災訓練を実施し、消防署の方々から適切な指導を受けながら訓練を行っている。またライフラインの停止想定のカキ出し訓練、不定期に通報訓練（緊急連絡網）を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や更衣時等プライバシーに配慮した介助を行っている。又失敗した事で御本人様が落ち込まない様優しい声掛けを行っている。「一人一人の人格の尊重・プライバシーの確保」については職員全体で深く話し合い学び合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご希望に添えるようにできるだけ応えている。意思表示できない方についてはご家族の意見を聞き入れ連携を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や都合に合わせた支援を行っている。ご利用者の個人差もある為一人ひとりの状況も観察しながらその日の予定を変えたり状況に応じた個別性のケアをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に着る衣類もご本人様に選んで頂いている。意思表示の難しい方においては好みの色や似あう着衣を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは基本的に職員が行うがその時々状況により食器洗いをして頂いたりしている。又好みの食べ物のリクエストにも応えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者個人に合わせた食事量や形態を把握し、摂って頂いた摂取量や水分量をチェック表に記録している。体調・体重の増加等にも注意し、必要に応じて量を減らしたり、増やす事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の前後と就寝前に声掛けを行い、必要な方については職員で口腔ケアの介助を行っている。義歯については、洗浄剤で消毒を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	プライバシーに配慮しながら、利用者の一日の排泄状況を把握し尿取りパットでの排泄に頼らずトイレ誘導を行い排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、職員間で排便状況を把握している。また、ドクター、訪看へ相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴においては御本人の希望に添い行っている。職員都合により入浴が出来ない場合は時間調整、清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり好きな時間に休息・余暇活動をしている。ご本人の希望で昼寝をしたりゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連絡帳・ケース記録等に記載し職員同士で連携を図っている内服変更の際は主治医等に確認し職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活作業をご利用者・職員と一緒に無理のないように楽しく行っている。趣味等においてのできるかぎり支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には散歩や外出など声掛けし気分転換を図って頂いている。ご利用者から外出の希望があった場合は出来るだけ応えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはご利用者の金銭管理は事業所で預かり管理している。希望者によっては個人で管理されている方もいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人からの電話の訴えやご家族から電話があった際は、本人と代わりゆっくり会話を楽しんで頂いている。ご家族から手紙や贈り物が送られてきた際は本人にお渡しし届いたことをご家族へ連絡している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やホールに花を添えたりご利用者同士で共有する場所であるホールやトイレを定期的に清掃している。また、生活の中で季節にあった食事や事業所で作っている畑での採れた野菜などを見て頂き季節感を感じて頂いている</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関先にベンチを置いたりして天気の良い日にはいつでもご利用者同士でくつろげる空間を取り入れている。また、その一人ひとりにあったホールでの座席配置にも気を配り居心地の良い環境を提供している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室等においては、ご本人やご家族に相談しながら家具を配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険個所に充分配慮し、ご本人やご家族に相談しながら家具等の配置を行う。ご本人の状態に合わせて再度配置を変更したりしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	開設当初から法人理念・事業所理念を基本に支援を行っている。ユニットごとの理念も掲げ、それをもとに取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事として近隣の小学校の運動会や保育園との交流会に参加し、交流を深めている。日常的にはなじみのある地域の理美容室を利用し地域とつながりを持つようにしている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	現在のところ実施できていないが、法人で行っている介護予防教室等に参加できる機会があれば活かしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。、会議の中では事業所での取り組みや状況を報告しご意見を頂き、行事で作った味噌やちまき等もお配りしている。会議での意見をもとにサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議や地域密着型サービス連絡会に参加し事業所の実情やサービスの内容を報告し、行政機関との連携を図り情報交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施錠については夜間帯での戸締りを行っているがそれ以外は基本的には行っていない。新たに、法人で身体拘束廃止規程を制定し、代表者・全ての職員において身体拘束をしないケアを心がけ理解している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員同士で研修を行い虐待防止に向けて安心できる環境の提供に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所内で研修を行い必要な時は説明できるように学びを深めている。新人職員へ対しても、独自に研修を行い、知識を高められるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	ご利用者・ご家族の方に契約する際、書類等で詳細に説明を行い理解・納得して頂き契約に至っている。不安や疑問点がある際はその都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議でご利用者やご家族の代表者を決めて参加して頂き、意見を述べる機会を設けている。また、面会の際にはケース記録の閲覧によって、様子を把握して頂いている。また、年1回の利用者満足度調査に於いてご意見を頂いている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	リーダー会議や年2回の人事考課面談を通し意見や提案を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課の導入により職員個人が自己評価をし、管理者などで評価を行うことで職員にも向上心を持って業務に望めるよう努めている。勤務状況や給与体制にも配慮されている。法人独自に、バースディ休暇・アニバーサリー休暇・PTA休暇なども取り入れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を設けると共に、内部研修を定期的に計画し、職員の質の向上に努めている。また、新人職員に対してはプリセプター制度やスキルアップ研修を用いて、統一した教育を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス連絡会に参加し同業者との交流や連携を図っている。また、地域のサービス事業所や行政機関との連携も図っている。各課合同の内部研修等により学ぶ機会を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報提供やご本人・ご家族に面会し、できる限りの状況を把握しておく。接する際には相手が不安にならないように言葉遣いに気を付けて要望に応えられる様努めている。知り得た情報を元に、ミーティングを利用しケアに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階でご家族の方からの不安なことや要望に耳を傾け要望を聞く。その情報や要望を踏まえたうえでミーティングを行い職員間で支援方法を考えケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の方からの要望を聞き、応えられるように職員、ケアマネージャー等と連携を図り必要としている支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	全てにおいて職員だけで支援するのではなくご本人の意思を尊重しながら調理・洗濯・掃除など共に行い協力し合って生活している。みそ作りやちまき作り等の行事の際には、職員と利用者が協力し合いながら行っている。何事においても出来る事はして頂き出来る事を模索していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の支援状況等を相談し、ご家族の意見も踏まえながら今後のケアの方針を決め、支援に繋げている。面会時等において御本人の現状をお伝えし、今後のケアについて相談している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店など定期的に利用されたり、天気の良い日などは馴染みのある場所までドライブをしたりし支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者や職員の共有の場所でお茶を飲まれたり体操をしたり洗濯物をたたんだりできるように支援している。職員が間に入り孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご利用者のご家族等にも広報誌を送るなどして関わりを持ち関係を継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の方とコミュニケーションを図りその人の思いや要望などを聞き取り把握に努め出来るだけ応えられるようにしている。意思伝達が困難なご利用者の方についてはご家族に相談し情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の方へ今までの生活暦を尋ねそれに伴い少しでも今までの生活の様に過ごす事が出来るようにしている。御利用者と一緒に家に帰ったりその中で以前の暮らしにおいて話を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の心身状態や有する力等の把握に努めている。改善すべき必要性があれば職員間でミーティングを行い、検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にミーティングや家族を交えた話し合いを持ち、職員間で意見交換をし、今後のケアに活かせるように努めている。モニタリングについては、その都度ミーティングを行い実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>身近で支える職員が事実やケアでの気づきを具体的に書くように努力している。情報を共有しながら実践に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご利用者やご家族のニーズに出来るだけ応えられるように心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域での行事等、積極的に参加をし馴染みのある場所に外出したり、自然な暮らしをして頂いている。散髪については、行き付けの理美容室を利用し関係が継続できるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族の同意のもと、月に一度の主治医の往診を実施している。また、協力医療機関との連携を図り他科受診の際も適切に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携しながら日常的な支援を行っている。特変時も連絡をとり指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が入院した際は、定期的に職員が面会に行っている。その際、看護師やドクターから病状の経過や状態を聞き把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で事業者が対応できるケアをご家族に説明し理解して頂いている。また、医療機関と随時連携を図るようにして職員で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については適切な対応が出来る様、内部研修などを通して学んでいる。急変時の対応には職員・主治医・併設施設の職員とも連携を図りながら協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して2回総合防災訓練を実施し、消防署の方々から適切な指導を受けながら訓練を行っている。様々な状況での想定を考えて御利用者・職員に協力を頂き防災訓練を行っている。またライフラインの停止想定のカキ出し訓練を行っている。緊急連絡網を不定期に実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や更衣時等プライバシーに配慮した介助を行っている。又失敗した事で御本人様が落ち込まない様優しい声掛けを行っている。「一人一人の人格の尊重・プライバシーの確保」については職員全体で深く話し合い学び合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご希望に添えるようにできるだけ応えている。意思表示できない方についてはご家族の意見を聞き入れ連携を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望や都合に合わせた支援を行っている。ご利用者の個人差もある為一人ひとりの状況も観察しながらその日の予定を変えたり状況に応じた個別性のケアをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪については、ご本人が希望するなじみある理美容室を利用し髪を整えている。身だしなみは、昔から慣れ親しんだ洋服や化粧品などをご自宅から持ってきて頂き、その人らしいおしゃれができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは基本的に職員が行うが方付け等は、数名のご利用者と職員一緒に行っている。食事の時間は、職員ご利用者と話をしながら摂っている。月に1回バイキングを行い、ご利用者に選んで食べて頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者個人に合わせた食事量や形態を把握し、摂って頂いた摂取量や水分量をチェック表に記録している。体調・体重の増加等にも注意し、必要に応じて量を減らしたり、増やす事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のあとと就寝前に声掛けを行い、必要な方については職員で口腔ケアの介助を行っている。義歯については、洗浄剤で消毒を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄については、プライバシーに配慮した声掛けを行っている。定期的な声掛け等によりリハビリパンツから布パンツに変更したり自立に向けた支援を行っている。御本人からの排泄の訴えに対しては迅速に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、職員間で排便状況を把握している。腹部をマッサージしたりドクターへ相談したりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴においては御本人の希望に添い行っている。職員都合により入浴が出来ない場合は時間調整、清拭を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり好きな時間に休息・余暇活動をしている。ご本人の希望で昼寝をしたりゆっくり過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際は連絡帳を活用し、職員全員が薬の目的や効果について把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活作業をご利用者・職員と一緒に無理のないように楽しく行っている。趣味等においてのできるかぎり支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日には散歩や外出など声掛けし気分転換を図っている。ご利用者から外出の希望があった場合は出来るだけ応えられるようにしている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはご利用者の金銭管理は事業所で預かり管理している。希望者によっては個人で管理されている方もいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご本人からの電話の訴えやご家族から電話があった際は、本人と代わりゆっくり会話を楽しんで頂いている。ご家族から手紙や贈り物が送られてきた際は本人にお渡しし届いたことをご家族へ連絡している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご利用者同士で共有する場所であるホール・廊下・トイレなどを定期的に清掃している。また、季節に合った花を飾っている。ドアの開け閉めなどプライバシーの配慮もしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に設置したソファをトイレを待つのに使用したり、ご利用者同士で休憩が出来る空間として活用できている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室等においては、ご本人やご家族に相談しながら家具を配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険個所に充分配慮し、ご本人やご家族に相談しながら家具等の配置を行う。ご本人の状態に合わせて再度配置を変更したりしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない